

# INFORMATION

チーム・コヤーラ協賛企画

## みそろぎ人形展 ～民俗と創作の出会い～

「みそろぎ」とは、この展示会のためにつくられた造語で、英語のミノロジー（神話学）をひらがな化したものです。内容は神話だけでなく、民話、伝承や想像などから人々の日常に寄り添う異次元の存在を扱いたいと思っています。

この展示会では、郷土人形、創作人形、造形、フィギュア的なオブジェ、海外の民芸的なアプローチの作家の方々約 50 名の作品が集まります。人形の原点を感じる展示会にしたいと思っています。チーム・コヤーラのスタッフも出品・運営で関わる羽関オフィスとの共同企画です。

ぜひ、ご来場下さい。

会期：2月4日（水）～2月10日（火）

9:00～21:00（最終日は16時で終了）入場料 無料

会場：丸の内オアゾ 丸善本店4Fギャラリー

東京都千代田区丸の内1-6-4 oazo ビル内

Tel：03-5288-8881（代表）

企画：羽関オフィス

写真左 アンナ・ダヴィデンコ（エストニア）  
右 高松宮内張子みき子作「奉公さん」



## チャリティー創作人形展

—— 創作人形の遊び

3月3日（火）～3月8日（日）

偕楽園公園センター

茨城県水戸市見川1-1251

開場：9：00～16：30

主催：チャリティー創作人形展実行委員会

連絡先：TEL 029-253-2957

（遊工房事務局 知神けい子）

チーム・コヤーラも後援しています。



## ドイツ【SPRING DOLL FESTIVAL】出展者最終募集

（ドイツ/ミュンスター 4月25日・26日）

### 出品者・ツアー参加者募集！

チーム・コヤーラは、ドイツで初めて開催される「スプリング・ドール・フェスティバル」に協力しています。このフェスティバルに参加・見学するための特別コースのツアーもご用意しました。詳細は同封のチラシをご覧ください。チーム・コヤーラ枠ブースでは会員作品15点近くを展示予定。チーム・コヤーラの公募展出品者の方々も、このフェスティバルで国際デビューされます。まだ若干空きがありますので、関心のある方はお問い合わせ下さい（審査あり）。テーブルやブースを購入して参加する一般参加枠（審査無し）も募集中。ツアーに参加されず現地に行かれる方は、フェスティバルとチーム・コヤーラが提携する旅行代理店オフィス・ザイ（Tel:03-3684-9395 email freude-reise@office-sei.net）が旅行のご相談に応じます。

現地ではチーム・コヤーラのスタッフが作品紹介のお手伝いを致します。

個人での直接応募、出品は自由です。会場には日本語通訳が常駐し、日本からの出品者のお世話をいたします。

一般参加枠へは日本語のウェブサイトから直接お申し込みができます。

<http://springdollfestival.jp.com/>

**コンテスト「アマリア賞」も開催。**（対象：現地参加者のみ）

※ミュンスターでは同日程でデディエアの国際的なイベント、デディエアトータルも開催されます。共に同じ主催者による開催で、会場は隣接、入場券は両イベントに入場できる共通チケットとなります。

フェスティバル主催者のセバスチャンを囲む ART OF DOLL 日本人出品者。出品者を大切に扱い、国境を越えたドールアートの振興に力を注いでいます。ヨーロッパのグローバルな人形展の再出発をかけたこの企画、ぜひ育って欲しいと思っています。



### チーム・コヤーラからのお知らせ

#### ●展示会ボランティア募集

チーム・コヤーラが関わる展覧会のお手伝いを募集しています。主催者の立場で作品を見ることはとても勉強になりますよ。内容は搬出入・展示の当番のお手伝い。薄謝あり。日時は相談に応じます。詳しくは事務局までお問い合わせ下さい。

対象展覧会「みそろぎ人形展（2月4日～10日）」「FANTANIMA!（4月29日～5月5日）」（各展とも搬入作業は初日前日）

#### ●コヤーラ通信への寄稿募集

会員の方による展覧会のリポート記事を受け付けます。詳しくは事務局まで

#### ●アンケートをご利用下さい。

同封されているアンケートは、会員の皆様のご希望やご意見を伺うためのものです。このアンケートから、活躍のステージを発展させた方もいます。どうぞご利用下さい。

作品写真 2～3 点（全体・アップ・裸形） サイズ：ハガキ大。  
「会員番号」「作家名」「タイトル」「素材」「サイズ」他、簡単なコメントなど。  
※何点でも応募できますが、誌面の都合上掲載はお一人1点になります。  
※応募作品はウェブ上で公開されることもあります。（講評は紙面のみ掲載）  
※応募書類は返却いたしません。

### 個人情報について

頂いた個人情報はチーム・コヤーラの業務委託を受ける HAZEKI office が厳重に管理します。名簿はチーム・コヤーラのニュースレター発送に使用させていただく他、チーム・コヤーラの趣旨に沿ってDMクラブ会員にとって有意義と判断した情報を伝達する以外には一切使用せず、チーム・コヤーラ以外の第三者が閲覧、使用することは一切ありません。

### 各お申し込み・連絡先

チーム・コヤーラ  
東京都東村山市久米川町 3-27-57 HAZEKI office 内  
TEL 042-395-7547（担当 ハゼキ）  
FAX 042-395-7975  
URL <http://www.ab.auone-net.jp/~koyaala/>  
Email team\_koyaala@yahoo.co.jp

KOYAALA 通信 編集責任者 羽関チエコ（HAZEKI office）

©KOYAALA TSUSHIN 2010, printed in Japan 本紙記載の記事・写真の無断使用・転載を禁じます。



# KOYAALA 通信 No.20

Jan.1, 2015



「KOYAALA 通信」は、チーム・コヤーラがコヤーラ・クラブ会員に発行するニュース・レターです。年4回発行 発行日（予定）1月1日、4月1日、7月1日、10月1日

謹賀新年 今年もどうぞよろしくお願いいたします。 チーム・コヤーラ一同

## ART OF DOLL

毎日曇天か雪模様が続く冬 Moskva。世界で最大規模を目指す ART OF DOLL は今年で5回目をむかえました。折しもウクライナ危機問題、ロシアルーブル暴落の時期に遭遇し、企画展示部分や客足に影響がなかったとはいえません。

1回目、2回目と会場の外に入場待ちの列ができるほどの関心があった初期に比べると、世界一の規模とレベルを目指すこの人形イベントが人々の関心をどうつないでいくか、これから真価を問われることになるという印象を受けました。日本で創作人形関連の企画が激減した状況やロシアの作家の成長のスピードを思うと、ぶれずに自分の世界観を押し通している作家の存在が益々貴重になってくるように思います。

企画展示の部分は、毎年様々なテーマに取り組む興味深いインスタレーションが見られるのですが、今回はそれが少ないのが心残りでした。そのなかで、カザフスタンで初めての人形作家を名乗る若きナタリア・レピヒナと、ロシアのユリア・リトヴィノヴァの「鏡」をテーマにしたコラボレーションが地味ながら出色でした（写真②）。レピヒナはブース上部にネットを張って、自作品を逆さまに設置。荒野の空気を感じさせるレピヒナの人形は単体でも魅力的ですが、こういう思い切った空間演出は表現の可能性を広げていくことでしょう。

世界のアートフェアに進出しているグロモヴォギャラリーの展示は、ロシア発の人形作品を美術として扱うゆるぎないスタンスを常に感じさせます（①）。ロシアから美術的にクオリティの高い作家が出続けるのは、このようなギャラリーの存在が背景にあるからともいえるでしょう。



左：ART OF DOLL 主催者挨拶をするラナ・ラッタ（右） 右：会場 Gostiny Dvor

## モスクワ展示会 report

文・編集 羽関チエコ

——ロシアに来て、自分がどこか縛られていたということに気づきました。これからは変な枠はとって、のびのびと制作をしたいと思いました。それが人をひきつけるんだということを、他の人の作品をみて思いました。もっと自分を出してい、という課題がみえてきました。本当に勉強になりました。（クサボン）

Большое спасибо!



今回の展示にはドイツ、ウクライナ、チェコ、ベラルーシ共和国、バルト三国などの人形展イベントの主催者が顔をそろえました。また、上海の主催者も初めて参加しました。各国でどのような人形文化が育っていくのでしょうか。インターネットで情報交流が自在になった現在、この ART OF DOLL が世界での創作人形の新しい流れの拠点となったことは確かなようです。

チーム・コヤーラへの期待も寄せられていますが、ロシアではヴェラとユーリ夫妻のチーム・コヤーラスタッフとしての働きがあって、チームとしての取り組みが可能でした。このような関係を地道に構築し、確かな交流を蓄積していくことこそが私たちのミッションだと思っています。大変ですがそれらはすべて、素晴らしい作品の出会いで報われます。まずは作品ありき。新しい年も、それぞれのオンリーワン作品との出会いを楽しみにしております。



①サシャ・フダコヴァの床置き作品（約130cm）。迫力があり記念撮影する人が後を絶たなかった。



②レピヒナ（カザフスタン）とリトヴィノヴァの（ロシア）のコラボレーション作品「鏡」

HELLO TEDDY! 2014/12/4-7 T-square

ART OF DOLL 2014/12/12-14 Gostiny Dvor

日本の出品者と現地スタッフ（ART OF DOLL 会場にて）

左から クサボン、佐々木英俊、羽関チエコ、ヴェラ・ヴァソヴァ

ユーリ・ボドコヴァエフ、マリア・ミハエロヴァ（通訳）

松岡ミチヒロ、新家智子（敬称略）





①佐々木英俊さんと「不借身命」  
迫力のある力士は会場でも存在感がありました。  
「今後、人形を作っていくうえで励みになりました」  
ロシアでは女性の人形に魅力的なものがあつて、自分も作ってみようかと思いました」  
②取材を受ける新家智子さん。新家さんの作品はロシアの人に大好評です。  
「今までも真剣にやっけてきているけれど、こんなに感動してくれると、さらにちゃん

と向き合わないと、と思います。とにかく作るしかない。作ることが好きでよかった」  
③、④チーム・コヤールブース  
壁面のポスターは現地スタッフのユーリがデザイン制作しました。  
出品者（順不同） クサボン、長谷川裕子、くるはらきみ、HIROKO、福泉久美子、佐々木英俊、Minagawa Dolls、原田万紀、成瀬麻里子、新家智子、HELLO TEDDY 出品者一部を含む

⑤松岡ミチヒロさんのブース  
粘土でできた超絶技巧のスチームパンク作品。来場者の視線は真剣そのもの。  
「僕はアウェーな感じがしたんですが、それでも熱心に見てくれる人の目の色が違う。子供たちも。こんな環境ならセンスも良くなりますね。これはもう、ジェラシーです。僕、ひとがたをチャレンジしようかな！と改めて思いました。僕は新しい自分

を生ます！」  
⑥「クルクルチクチク」の講習会プロモーションをするクサボンと通訳のマリアさん。二人のコスプレ姿は会場で撮影ターゲットになりました。  
⑦コンテストで「チーム・コヤール賞」を受賞したガリナ・コレスニコヴァさん。発想、造形、色彩、ユーモアの調和が素晴らしい作品でした。



## HELLO TEDDY!

出展申し込みが数ヶ月で埋まる人気イベント HELLO TEDDY は 2014 年は 359 の出展数でした。庶民的な内容であるせいか活況で、テレビ取材も多く入りました。FANTANIMA! の日本人出品者を含む羽関オフィスのケースは正面入り口にあり、何度も取材を受けました。  
出品者は創作ものも多く、全体的にクラシックなスタイルは少数派でした。人気作家の作品は売約済みということも多く、さらに常に予約を抱えている作家は出展しないというケースも出てきています。人気路線を追う作風も後続作家のあいだで定着、技術的にも拮抗してきました。審査を担当した FANTANIMA! 賞はソロドヴァ・オルガさんに決めさせて頂きました。他作家の影響がみられるものの、簡潔でセンスのあるデザインと技術力に個性の発露を感じました。  
コンテストはルールが変わり無料だったエントリー料が有料になったため、今年は実力派のプロがエントリーを控えたので、そこは残念でした。ロシアでは動物のリアルな表現を評価する傾向があるようで、グランプリをとったクリザリドのペアは、獠猛な顔つきとカジュアルなファッションのミスマッチが受けたようです。

①ソロドヴァ・オルガ（FANTANIMA! 賞）  
②クリザリド（グランプリ）  
③羽関オフィス＋チームコヤールのケース  
④ヴェラ・ヴラソヴァ（チーム・コヤールのモスクワスタッフ）  
日本からの出品者（順不同）：  
Noe、青の羊、影山多栄子、しろいろ、Ryoko~needle felted art~, 松沢香代、CHICHIP、deeper-bj、クサボン



## 秋の展覧会から

文 羽関チエコ



### 秋山まほこ

良い人形、という言い方があります。アートとか工芸にはない価値観で、そういう人形に出会うと存在そのものに言葉が手も足も出せない迫力を感じます。アンティークや古人形にそういうものを見かけますが、創作でその感覚を醸し出すのは至難の業と思います。「人・形展」に出品された秋山まほこさんの新作は、そのような人形でした。秋山さんの新作を見るのは、最近では貴重な機会となってきましたが、そのたびに、人形への愛、可憐さ、遊び心を一身に詰めた作者の思いが伝わってくるようで、目が離せなくなるのです。  
「人・形展」から 9月24日～30日 丸善本店ギャラリー（東京／丸の内）

### 影山多栄子

古い人形の風合いを意識した人形制作は最近よく見られる傾向です。2003年の個展「うきわ」から、影山多栄子さんは10年以上一貫してその方向で創作が続けられています。写真の「おだんご」は文化人形のようなパターンで作られています。硬質の粘土の顔に引っ掻き傷のように繊細な線を重ねて描かれた目や眉の表情、極端に小さな鼻や口はこの作者の確立した個性といえるでしょう。レトロな時代色に潜む影をあわせもち、抑制を保ちながら時にはシュールな表現を厭わないのも、影山作品をより魅力的に感じさせる特質です。  
「影山多栄子 mini 個展 ふわりとひりり」から 10月11日～26日 ぼらん・どおる（東京／板橋区）

### 山口景子

絵筆のように布と糸を自在に扱った人形で、作家の間でも人気の高い山口景子さんはここ数年、陶人形にも力を入れ、制作の割合は半々になってきているそうです。新作の陶の母子像は旅行先で見ただけのクリムトの色彩感覚が反映されました。布での制作にはない実験的な部分があり、作る時間は布人形のほうがかかるけど、頭で考える時間は焼き物の方が多いとのこと。陶のトルソやオブジェには布人形のときには見られなかった遊び心や思い切った表情を見ることができます。  
布人形でも日本の古布だけでなくフィリピンのピーニャなど新しい素材も取り入れ、青と白の種族のシリーズがさらに充実してきました。  
「山口景子個展 子守唄」より 11月14日～19日 銀座人形館 Angel Dolls

### 西村 FELIZ

中南米諸国に滞在し、その体験記「生きるって大変」を『ドール・フォーラム・ジャパン』で連載した西村 FELIZ さんの作る人形は、鮮やかな色合いで、どの家でも壁に聖人像を飾り、死者の日を陽気に祭るという中南米の世界を生き活きと感じさせます。今回の個展では中央に置かれたメキシコの国旗の図案を元にした「メキシコ」が印象的でした。首都の地を予言し、サボテンの上で蛇をくわえる鷲は、作者の手にかかる愛らしいキャラクターのようにも見えます。頭上の骸骨、蛇が抱える子供は作者の創作です。遺跡発掘の時の印象やストリートチルドレンのイメージを加え、メキシコを象徴するものを盛り込みました。陽気さと毒が、愛らしい人形に共存する FELIZ 的人形世界を改めて感じる展観でした。  
「西村 FELIZ 人形展 COLOR ROOM」から 10月3日～14日 ストライプハウス・ギャラリー（東京／六本木）

